

施設名称：大阪府立近つ飛鳥博物館等	指定管理者：大阪府文化財センター・近鉄ビルサービスグループ	指定期間：平成29年4月1日～平成32年3月31日	所管課：大阪府教育庁 文化財保護課
-------------------	-------------------------------	---------------------------	-------------------

評価項目	評価の基準（内容）	指定管理者の自己評価 （11月記入）		施設所管課の評価 （12月記入）		評価委員会の指摘・提言	
		評価 S～C	評価 S～C	H29 評価	評価 S～C		
<p>I 提案の履行状況に関する項目</p> <p>(1) 施設の設置目的及び管理運営方針</p>	<p>◇館の設置目的及び提案内容に沿った管理運営がなされているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料の収集、整理、保管、展示 ○歴史、文化等に関する教育への寄与 ○大阪の魅力の発信 <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府内所蔵資料の公開 ○豊富な資料の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府文化財センター所蔵資料の公開 ○調査研究による最新の成果の発信 <ul style="list-style-type: none"> ・館報の刊行1回 ・図録の刊行3回 	<p>○資料の収集、整理、保管、展示</p> <p>展示室内、収蔵庫の温湿度を24時間、データ集積し、目視点検とともに保存環境の変化を監視。データロガーの設置を増やし、充実を図った。国重要文化財「修羅」の点検を3月に予定。紫金山古墳・南塚古墳出土品の保存状態点検を11月に実施し、異常の無いことを確認。</p> <p>○歴史、文化等に関する教育への寄与</p> <p>校外学習の受け入れ（小中学校31回）や出前授業（小中学校86回）を実施した。学芸員や教育専門員が具体的な素材を用いてわかりやすく解説することにより、社会教育施設である博物館の役割を果たし、歴史・文化等に関する教育の充実に寄与した。</p> <p>○大阪の魅力の発信 4回</p> <p>春季企画展に一須賀古墳群を、夏季企画展に百舌鳥・古市古墳群をとりあげた。また、冬季企画展では府内の最新発掘調査情報を公開する予定である。</p> <p>○豊富な資料の活用</p> <p>春季企画展において2件3点、夏季企画展において4件17点、秋季特別展において2件20点の大阪府文化財センター保管資料を公開した。冬季企画展においても5件77点を公開予定。</p> <p>○調査研究による最新の成果の発信</p> <p>図録を2冊（夏季企画展、秋季特別展）、解説小冊子を1冊（春季企画展）刊行し、冬季企画展についても図録1冊を刊行予定。『館報22』を3月に刊行予定。</p>	A	<p>○資料の収集、整理、保管、展示</p> <p>温湿度管理や定期点検等により、資料の適切な管理・活用が行われている。</p> <p>○歴史、文化等に関する教育への寄与</p> <p>小中学校の受け入れ（31回）、出前授業（86回）等、計画を上回る実施状況である。</p> <p>○大阪の魅力の発信</p> <p>大阪府内の遺跡に関する企画展の開催により、府内所蔵資料の公開がなされている。</p> <p>○豊富な資料の活用</p> <p>企画展、特別展において数多くの大阪府文化財センター保管資料が展示資料として活用されている。</p> <p>○調査研究による最新の成果の発信</p> <p>評価基準を満たす見込みである。</p>	A	A	計画通りに実施されている。

	<p>○国際的な研究交流・情報交換</p>	<p>○国際的な研究交流・情報交換 国内外の研究者と研究交流を行った。 来館研究者 247 名（うち海外の研究者 34 名）。</p> <p>◎自己評価 保管資料の安全な管理については、温湿度、照度の監視の充実を心掛けた。当館の使命のひとつである古墳時代に関する理解を深めるための展覧会を開催し、各展覧会では来館者から好評を得た。学校教育への参加も引き続き増加している。また、大阪府内の資料を通じ、その重要性を各展覧会において紹介することができた。よって、施設の設置目的及び管理運営方針に対する達成状況は良好である。</p>	<p>○国際的な研究交流・情報交換 韓国・ドイツ等の海外研究者を含む多くの研究者が訪れ、活発な研究交流が行われている。</p> <p>◎施設の設置目的及び管理運営方針にかかる評価 すべての評価基準を満たしている。特に、学校教育への寄与では計画を上回る実施状況であるほか、古墳時代の調査研究の成果を活かした展示や府内資料の公開等、館の設置目的に沿った運営がなされている。</p>			
<p>(2) 平等な利用を図るための具体的手法・効果</p>	<p>◇公平なサービス提供と対応、障がい者・高齢者への配慮がなされているか</p> <p>○高齢者、障がい者等への利用援助</p> <p>○子どもにもわかりやすい解説の充実 ・子ども向け解説・リーフレットの提供等 20 回</p> <p>○外国人利用者へ配慮したサービスの実施</p>	<p>○高齢者、障がい者等への利用援助 支援学校の校外学習に際して柔軟な対応で解説や体験メニューを実施したほか、障がい者の健康面に配慮し、機器用電源や休憩室を必要に応じて確保した。</p> <p>○子どもにもわかりやすい解説の充実 各展覧会で子ども向け解説パネルの作成を進めた。 子ども向け解説・リーフレットの提供等 27 回</p> <p>○外国人利用者へ配慮したサービスの実施 英語、中国語、韓国語による館内の案内を配布するとともに、音声ガイドの利用を積極的に案内した。また特別展において一部のキャプションに英語表記を加えた。</p> <p>◎自己評価 支援学校の校外学習では生徒の状況にあわせ、柔軟に施設を利用してもらった。また、夏季は児童の夏休み期間にあわせた展覧会を実施し、児童の家族と共に積極的に伝える機会とし、公平なサービス提供を行った。</p>	<p>A</p> <p>○高齢者、障がい者等への利用援助 施設の利用における援助、展示等の理解を促進する事業が実施されている。</p> <p>○子どもにもわかりやすい解説の充実 進捗状況は 135%であり、既に評価基準を大きく超えている。</p> <p>○外国人利用者へ配慮したサービスの実施 外国語のパンフレットや音声ガイドにより外国人利用者への配慮がなされている。</p> <p>◎平等な利用を図るための具体的手法・効果にかかる評価 すべての評価基準を満たしている。また、「子ども向け解説・リーフレットの提供等」は目標を大きく超えており、子どもの展示への理解促進が積極的に図られている。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>施設所管課の評価は妥当である。</p>

<p>(3) 利用者の増加を図るための具体的手法・効果</p>	<p>◇利用者増加のための工夫がなされているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別展・企画展の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数/開催日数 4回/200日 ○「でかける博物館」事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・館外における講演会、講座 42回 ・出張展示 4回 ・出前事業（小中学校）46回 ○学校教育との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の受入件数 27回 ・学校教育の発表の場の提供 2回 ○「府民が参加する博物館」事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・近つ飛鳥ギャラリー13回 ○多様なニーズに応える事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・「入門講座」「土曜講座」の実施 ○「風土記の丘」の積極的な活用 <ul style="list-style-type: none"> ・「古墳時代まつり」の実施 ○入館者数、館外利用者数及び風土記の丘利用者数 <ul style="list-style-type: none"> ・総入館者数 94,200人 ・館外利用者数 19,850人 ・風土記の丘利用者数 96,600人 <p>【参考】</p> <p>平成 29 年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総入館者数 97,044人 ・館外利用者数 69,589人 <ul style="list-style-type: none"> ※国立民族学博物館で出張展示を実施 ※平成 28 年度実績は 35,247人 平成 27 年度実績は 23,210人 <ul style="list-style-type: none"> ・風土記の丘利用者数 105,881人 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別展・企画展の充実 <p>3回/150日を開催し、年間では4回/200日を開催予定。</p> ○「でかける博物館」事業の実施 <p>館外における講演会、講座を28回実施した。ワークショップを通じた出張展示を3回実施。また他館での出張展示を2～3月に実施予定。出前事業（小中学校）を86回実施した。</p> ○学校教育との連携 <p>小中学校の受入件数31回、学校教育の発表の場の提供として「古墳の森コンサート」2回を実施した。</p> ○「府民が参加する博物館」事業の実施 <p>近つ飛鳥ギャラリーを6回開催し、年度内10回の開催を予定。</p> ○多様なニーズに応える事業の実施 <p>当館学芸員による入門講座、土曜講座を16回実施（年間24回開催予定）。</p> ○「風土記の丘」の積極的な活用 <p>「古墳時代まつり」を開催し、うめまつり、さくらまつりの開催を予定。</p> ○入館者数、館外利用者数及び風土記の丘利用者数 <ul style="list-style-type: none"> ・総入館者数 66,019人 ・館外利用者数 7,635人 ・風土記の丘利用者数 53,568人 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○特別展・企画展の充実 <p>冬季特別展の開催により、評価基準を満たす見込みである。</p> ○「でかける博物館」事業の実施 <p>進捗状況は、「講演会、講座」67%、「出張展示」75%、「出前事業」187%であり、いずれも評価基準を満たす見込み、または既に評価基準を大きく超えている。</p> ○学校教育との連携 <p>いずれも評価基準を満たしている。</p> ○「府民が参加する博物館」事業の実施 <p>申込制のため、実施回数については評価基準に満たない可能性がある。</p> ○多様なニーズに応える事業の実施 <p>「入門講座」「土曜講座」が継続的に実施されている。</p> ○「風土記の丘」の積極的な活用 <p>「風土記の丘」を活用した様々な事業が実施されている。</p> ○入館者数、館外利用者数及び風土記の丘利用者数 <p>進捗状況は、「総入館者数」70%、「館外利用者数」38%、「風土記の丘利用者数」55%であり、「総入館者数」は評価基準を満たす見込みであるが、「館外利用者数」、「風土記の丘利用者数」は評価基準に満たない可能性がある。</p> 	<p>S</p>	<p>A</p> <p>「でかける博物館」事業の「出前授業」は実施回数が多すぎるため、今後は全体の業務のバランスを考えて実施すべきである。</p> <p>「府民が参加する博物館」事業の「近つ飛鳥ギャラリー」にかかる適切な評価基準を検討すべきである。</p> <p>利用者満足度調査の結果は高く評価すべきである。</p>
---------------------------------	--	--	----------	---	----------	---

	<p>○利用者満足度調査の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「満足」「やや満足」の割合 90% 	<p>○利用者満足度調査の結果</p> <p>春季企画展：満足：74.7% (やや満足とあわせ 97.5%)</p> <p>夏季企画展：満足：67.6% (やや満足とあわせ 98%)</p> <p>秋季特別展：満足：63.0% (やや満足とあわせ 93.4%)</p> <p>◎自己評価</p> <p>利用者の増加を図るため、展覧会の内容や講演、講座のテーマに工夫を凝らした。また館外事業を通じての広報活動も行い、講座などの参加者の増加とともに、入館者数についてはおおむね目標を達成する見込みである。よって、利用者の増加を図るための具体的手法・効果に対する達成状況は良好である。</p>	<p>○利用者満足度調査の結果</p> <p>評価基準を大きく超える見込みである。</p> <p>◎利用者の増加を図るための具体的手法・効果にかかる評価</p> <p>「府民が参加する博物館」事業、「館外利用者数」、「風土記の丘利用者数」は評価基準に満たない見込みであるが、そのほかの項目は評価基準を満たす見込みである。また、「出前事業」はすでに評価基準を大きく超えているほか、利用者満足度調査の結果も評価基準を大きく超える見込みである。</p> <p>「府民が参加する博物館」事業は申し込み制、「館外利用者数」は他館の協力が必要となりいずれも不確定要素が多いこと、「風土記の丘利用者数」については台風被害により長期にわたり園内を通行止めとした影響が大きいと考えられること、館自体の被災もあった中で入館者数を含め概ね評価基準を満たす見込みであること、評価基準を大きく超えるものもあることから、全体として計画どおりの実施状況と評価できる。</p>			
<p>(4) サービスの向上を図るための具体的手法・効果</p>	<p>◇サービスの向上が図られているか</p> <p>○Web の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新回数 110 回 <p>○館外における資料の活用</p> <p>○れきしウォークの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施回数 6 回 	<p>○Web の活用</p> <p>ホームページ更新回数 81 回</p> <p>○館外における資料の活用</p> <p>2～3月に府外の博物館で出張展示を実施予定。また、ショッピングモールなどを会場とした家族向けイベントにおいてワークショップを開催した(3回)。</p> <p>○れきしウォークの実施</p> <p>実施回数5回(年間6回実施予定) 参加希望者が増えつつあり、うち2回は2班体制で実施した。</p>	<p>A</p> <p>○ Web の活用</p> <p>進捗状況は 74% であり、評価基準を満たす見込みである。</p> <p>○館外における資料の活用</p> <p>館外での展示やワークショップにより、館蔵資料が広く活用されている。</p> <p>○れきしウォークの実施</p> <p>評価基準を満たす見込みである。</p>	<p>S</p>	<p>S</p>	<p>施設所管課の評価は妥当である。</p>

	○解説シートの作成、展示解説の実施	○解説シートの作成、展示解説の実施 展覧会ごとに解説シートを作成し、配布した。また学芸員による展示解説を13回実施した。(年間で19回実施予定) ◎自己評価 Web サイトではこれまでと同様に利用者の役に立つ情報の発信を進めた。またれきしウォークでは希望者の増加に応じて、参加者数を柔軟に増やす対応を行うなど、各分野でサービスの向上を図ることができた。よって、サービスの向上を図るための具体的手法・効果に対する達成状況は良好である。		○解説シートの作成、展示解説の実施 展示への理解の促進につながる解説シートの作成、学芸員による展示解説が実施されている。 ◎サービスの向上を図るための具体的手法・効果にかかる評価 すべての評価基準を満たしている。また、「れきしウォーク」では、定員を超える数の希望者も可能な限り参加できるよう対応していることから、全体として計画を上回る実施状況と評価できる。			
(5) 新しい展示テーマ・運営手法の実行	◇魅力あるテーマ選定、運営手法がとられているか ○ニーズに応えたテーマ設定と図録刊行 ・展示観覧者数に対する図録販売数割合 10% ○最新の成果の発信 ・スポット展示等による最新情報の発信 開催回数/開催日数 2回/30日	○ニーズに応えたテーマ設定と図録刊行 展示観覧者数 12,259 人に対し、1,303 冊の図録を販売し、入館者数に対する割合は 11%となった。 ○最新の成果の発信 スポット展示は未実施だが、年度末までに実施予定。 ◎自己評価 最新の研究成果を反映した展覧会のテーマ設定により、展覧会観覧者の好評を得たほか、図録の販売割合は高く、魅力あるテーマ設定を行うことができた。よって、新しい展示テーマ・運営手法の実行に対する達成状況は良好である。	A	○ニーズに応えたテーマ設定と図録刊行 評価基準を満たす見込みである。 ○最新の成果の発信 地震被害により長期にわたり展示予定箇所への立ち入りを制限したため、評価基準に満たない可能性がある。 ◎新しい展示テーマ・運営手法の実行にかかる評価 「スポット展示」については評価基準に満たない可能性があるが、地震被害による展示室の一部立ち入り制限が原因である。図録販売数割合については、博物館の一般的な状況よりも高い評価基準を設定しながらそれを超える見込みであり、利用者の満足度が高い魅力ある特別展・企画展が実施されていると言え、全体として計画を上回る実施状況と評価できる。	S	S	展示観覧者数に対する図録販売数割合は高く評価すべきである。
(6) 他機関等との相互協力	◇提案内容に沿った相互協力がなされているか ○博物館、民間企業、大学、民間団体等との事業連携 ・博物館との連携 5 件 ・地元市町村との連携 20 件 ・考古学専攻大学との連携事業の実施	○博物館、民間企業、大学、民間団体等との事業連携 他館との連携としてワークショップでの連携 1 件、共同シンポジウムの開催 1 件、計 2 件を行い、2~3 月に出張展示を予定している。地元市町村との連携として各種事業での後援をはじめ	B	○博物館、民間企業、大学、民間団体等との事業連携 進捗状況は、博物館との連携 40%、地元市町村との連携 60%であり、大学との連携も実施されている。博物館及び地元市町村については評価基準に満たない可能性がある	A	B	相互協力の実績としてどういった事業を評価対象とするのか検討すべきである。

		<p>め、連携講座などの事業を 12 件実施した。考古学専攻大学との連携としては古墳の測量実習に協力したほか、また、地元の大阪芸術大学とはデザイン学科と冬季企画展ポスター等のデザイン制作を実施したほか、各学科の実習や課題製作において協力した。他機関への資料の貸出については、17 件の依頼に対し 56 点の貸出となる見込みである。</p> <p>◎自己評価 他機関との相互協力事業の実施により、博物館活動の周知を進め、活動の幅を広げることができた。よって、他機関等との相互協力に対する達成状況はおおむね良好である。</p>	<p>る。</p> <p>◎博物館、民間企業、大学、民間団体等との事業連携にかかる評価 評価基準に満たない可能性があるが、多様な連携事業が実施されており、ほぼ良好な実施状況と評価できる。</p>			
<p>(7) 施設及び資料の維持管理の内容、的確性</p>	<p>◇施設・設備の維持・安全管理計画は適切か</p> <p>○施設管理 ・年間計画の策定と適切な実施</p> <p>○危機管理 ・マニュアルの徹底・履行 ・訓練の実施</p> <p>○定期点検の実施 ・記録簿の作成</p>	<p>○施設管理 指定管理者内の緊密な情報交換のもとに策定された施設管理年間計画に従い、施設管理を行った。冷暖房機器、警報機器、昇降機等において故障が生じた場合、迅速に対応する体制を整えている。 6月の地震発生後は、展示室の一部立ち入り制限、展示室エレベーターの故障による車いす等利用者に対しての利用制限の対応を所管課とすみやかに協議した。9月の台風21号通過後は、風土記の丘の倒木等で利用を制限することになり、復旧について所管課とすみやかに協議をした。</p> <p>○危機管理 火災、その他災害の予防および危機事象発生における対応について定めた、危機管理対応マニュアルを改訂した。6月の地震、夏以降の台風などの際に有効に機能した。 富田林市消防署河南分署の指導による自衛消防訓練を12月に実施予定。</p> <p>○定期点検の実施 施設・設備の保守定期点検を実施し、記録簿を作成した。また、近鉄ビルサービスによる総合ビルメンテナンスの専門の見地から、経年劣化等により修繕が必要な箇所を抽出し、所管課に改善を提案した。</p>	<p>A</p> <p>○施設管理 年間計画が策定され、計画に沿った施設管理が実施されている。また、緊急を要する被災時においても、被害状況の速やかな把握、対応策の提案等、迅速な対応がなされている。</p> <p>○危機管理 危機管理対応マニュアルの改訂とその徹底により、被災時においても適切な対応がとられている。防災訓練の実施についても適切に行われている。</p> <p>○定期点検の実施 施設・設備の定期点検が適切に実施され、記録簿の作成がなされているほか、点検結果を踏まえた適切な修繕方法等の提案がなされている。</p>	<p>A</p>	<p>S</p>	<p>施設所管課の評価は妥当である。</p>

		<p>◎自己評価</p> <p>自然災害が多発したが、自然災害で生じた設備の不具合等に対しては、所管課とすみやかに協議をおこない、適切に対応した。</p>		<p>◎施設及び資料の維持管理の内容、的確性にかかる評価</p> <p>すべての評価基準を満たしている。また、施設の老朽化による機器の故障、地震や台風等による被災の際にも、適切な危機管理体制により迅速な対応がとられていることから、全体として計画を上回る実施状況と評価できる。</p>			
(8)府施策との整合	<p>◇提案に沿った府施策との整合が図られているか</p> <p>○百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録推進事業への協力</p> <p>・関連遺跡資料の展示数 10 遺跡</p> <p>○「こころの再生」府民運動への協力</p> <p>・「こどもファーストデイ」の実施 12 回</p> <p>◇就職困難者等の雇用・就労支援が実施されているか</p> <p>◇府民・NPO との協働がなされているか</p> <p>○府民協働による事業の充実</p> <p>◇環境問題への取り組みがなされているか</p>	<p>○百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録推進事業への協力</p> <p>夏季企画展を「百舌鳥・古市古墳群に学ぶ古墳と水のマツリ」として開催し、9遺跡 29 点の出土品を含む最新の調査研究成果を取り上げた。また、世界文化遺産推進関連の事業にも積極的に参加し、イコモス関係者等の視察の受け入れ、海外展示企画などにも協力した。</p> <p>○「こころの再生」府民運動への協力</p> <p>・「こどもファーストデイ」の実施 8 回（年間 12 回予定）</p> <p>毎月第3土曜日を「こどもファーストデイ」とし、工作を中心としたワークショップを実施した。</p> <p>◇知的障がい者1名の清掃業務への雇用を再委託先で実施。</p> <p>◇府民協働による事業の充実</p> <p>NPO法人フィールドミュージアムトーク史遊会と協働し、古墳の見学会、講演会などの館外活動を実施、予定している。</p> <p>◇館内外の清掃、塵芥処理、館内空気環境測定を行い適正に環境を維持している。</p> <p>◎自己評価</p> <p>「こころの再生」府民運動への協力等の提案に沿った事業の推進に努め、子どもとのコミュニケーションを深めるきっかけづくりを応援した。また、就労困難者の雇用によって、行政の福祉化の推進に寄与することができた。地元の</p>	A	<p>○百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録推進事業への協力</p> <p>進捗状況は 90% であり、評価基準を満たす見込みである。</p> <p>○「こころの再生」府民運動への協力</p> <p>評価基準を満たす見込みである。</p> <p>◇就職困難者等の雇用・就労支援の実施が実施されているか</p> <p>計画どおりの雇用がなされている。</p> <p>◇府民協働による事業の充実</p> <p>NPO 法人と協働した多様な事業が実施されている。</p> <p>◇環境問題への取り組みがなされているか</p> <p>適切に実施されている</p> <p>◎府施策との整合</p> <p>すべての評価基準を満たしている。また、「百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録推進事業への協力」では、企画展やワークショップの実施、関係者による視察対応等、他方面にわたる協力がなされている。「こ</p>	S	S	世界文化遺産登録による来館者増加への対策等、大阪府主導のもと来訪者対応をすべきである。

		NPO 法人とも協働し、博物館活動をより充実することができた。	ころの再生」府民運動への協力」でも、月ごとに内容を変えたワークショップが実施されていることから、全体として計画を上回る実施状況と評価できる。			
--	--	---------------------------------	--	--	--	--

評価項目	評価の基準（内容）	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	H29	評価	評価委員会の指摘・提言	
			S~C		評価	S~C		
Ⅱさらなるサービスの向上に関する事項	(1)利用者満足度調査等	◇利用者満足度調査の実施により利用者の意見を把握し、その結果を運営に反映しているか ○利用者満足度調査の実施 ・調査実施回数 4 回	○利用者満足度調査の実施 特別展企画展ごとの 4 回の調査と、常設展示期間中を通じて実施、予定しており、満足、やや満足との回答は 9 割を超えている。アンケートの声を反映し、館内の観覧制限による導線の不明を、案内シート、サインなどの新設により対応した。 ◎自己評価 立地や施設の構造を除くと、比較的高い満足度を維持している。また頂いたさまざまな意見のうち、対応が可能なものについては臨機応変に対応した。よって、利用者満足度調査等に対する達成状況は良好である。	A	○利用者満足度調査の実施 3 月までに計 4 回の実施が予定されており、評価基準を満たす見込みである。 ◎利用者満足度調査等 評価基準を満たしている。また、実施ごとに結果のまとめ・分析・共有がなされ、利用者の意見を反映した管理・運営の改善につながっている。	A	A	施設所管課の評価は妥当である。
	(2)その他創意工夫	◇その他指定管理者によるサービス向上につながる取組み、創意工夫が行われているか	◇NPO法人フィールドミュージアムトーク史遊会と共催する「でかける博物館講演会」では、百舌鳥・古市古墳群に関わる内容でもこれまであまり取り上げられていないテーマ設定とし、多くの参加申し込みを得た。また、全国風土記の丘協議会より『風土記の丘ガイドブック』を刊行・頒布し、利用者の便に供した。博物館建築と風土記の丘の桜に関してヤフーによるターゲット広告を実施した。 ◎自己評価 継続して実施している館外講演会では、テーマ設定を工夫し参加者は増加傾向である。また「風土記の丘ガイドブック」を刊行し、利用を促すことができた。	A	新たなテーマによる講演会の実施、風土記の丘のガイドブック刊行、ターゲット広告の実施等、新たな取り組みが行われている。 ◎その他創意工夫 風土記の丘利用者の利便性を高める取組みに加え、館外講演会のテーマ設定の創意工夫、ターゲット広告の実施など新たな来館者を呼び込む取組みがなされており、計画どおりの実施状況と評価できる。	A	A	施設所管課の評価は妥当である。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">Ⅲ 適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する項目</p>	<p>(1) 収支計画の内容、適格性及び実現の程度</p>	<p>◇事業収支について、計画どおりに実施されているか</p>	<p>◇予算の範囲内で効果的かつ効率的な事業運営ができる事業計画を立案し、かつ、予算支出にあたっては費用対効果を勘案しつつ、比較見積りでの経費節減等を行いながら、最小経費で執行した。</p> <p>◎自己評価 予算の範囲内で効果的な事業計画を策定し、その執行に当たっては経費節減に留意し収入・支出のバランスの取れた事業を進めることができた。</p> <p>収支計画（当初予算）</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2">収入</td> </tr> <tr> <td>大阪府委託費</td> <td style="text-align: right;">135,367,000 円</td> </tr> <tr> <td>入館料収入</td> <td style="text-align: right;">5,338,000 円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">140,705,000 円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">支出</td> </tr> <tr> <td>施設維持管理費</td> <td style="text-align: right;">49,098,000 円</td> </tr> <tr> <td>人件費他</td> <td style="text-align: right;">91,607,000 円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">140,705,000 円</td> </tr> </table> <p>よって収支のバランスがとれている。</p>	収入		大阪府委託費	135,367,000 円	入館料収入	5,338,000 円	計	140,705,000 円	支出		施設維持管理費	49,098,000 円	人件費他	91,607,000 円	計	140,705,000 円	<p>A</p>	<p>予算の範囲内で事業運営がなされている。</p> <p>◎収支計画の内容、適格性及び実現の程度 経費削減に取り組みながら、予算の範囲内で充実した事業が実施されており、評価基準を満たしている。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>施設所管課の評価は妥当である。</p>
	収入																							
大阪府委託費	135,367,000 円																							
入館料収入	5,338,000 円																							
計	140,705,000 円																							
支出																								
施設維持管理費	49,098,000 円																							
人件費他	91,607,000 円																							
計	140,705,000 円																							
<p>(2) 安定的な運営が可能となる人的能力</p>	<p>◇必要な人員数及び人材を確保・配置のうえ、適切に事業が実施されているか</p> <p>◇従事者への管理監督体制・責任体制が整備されているか</p>	<p>◇提案に沿った人員を博物館に配置し、事業計画に沿って適切に事業を実施した。</p> <p>◇大阪府文化財センター本部における幹部会議、博物館定例会議、文化財保護課との連絡会議（いずれも月 1 回）及び博物館内連絡調整会議（週 1 回）を開催し、事業情報の交換、入館状況、注意事項等の周知を図り、責任体制を明確にし、設置者及び法人本部からの適切な指導・管理監督体制のもとに円滑な組織運営を行った。</p> <p>◎自己評価 博物館の運営を効率的に進めるために必要な職員を、博物館と本部に配置し、適正な管理監督体制・責任体制を維持しながら、適切に事業が実施できた。</p>	<p>A</p>	<p>◇必要な人員数及び人材を確保・配置のうえ、適切に事業が実施されているか 適切な人員配置により、充実した事業実施がなされている。</p> <p>◇従事者への管理監督体制・責任体制が整備されているか 関係者間で日常的に密な連絡調整・情報共有がなされ、明確な管理監督・責任体制のもとで管理・運営がなされている。</p> <p>◎安定的な運営が可能となる人的能力にかかる評価 必要な人員の配置による確実な管理監督体制のもと、適切な業務が実施されていることから、評価基準を満たしている。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>施設所管課の評価は妥当である。</p>																	

	(3)安定的な運営が可能となる財政的基盤	◇法人の財務状況は適切か	<p>【大阪府文化財センター】</p> <p>大阪府内の発掘調査の受託事業や博物館の管理運営を、スリムな組織体制と経費節減の徹底により安定的に経営している。</p> <p>29年度事業収入 564,901 千円 29年度事業活動収入 628,339 千円 29年度法人の基本財産 116,700 千円 29年度正味財産期末残高 1,539,873 千円 借入金なし</p> <p>【近鉄ビルサービス】</p> <p>近鉄グループのビル物件等を中心に、地方公共団体や民間企業の施設維持管理業務等を受注し、さらに徹底したコスト削減により安定的収益を維持している。</p> <p>29年度売上額 20,214,081 千円 29年度純利益 622,801 千円 借入金なし</p> <p>◎自己評価</p> <p>両法人ともに経営規模・事業規模・組織規模及び財務状況において、博物館の安定経営が可能となる体制を維持した。</p>	A	<p>大阪文化財センター、近鉄ビルサービスとも、収入や売上高の著しい減少はみとめられず、借入金もない。</p> <p>また、近鉄グループホールディングス株式会社についても大きな変動はみとめられない。</p> <p>◎安定的な運営が可能となる財政的基盤にかかる評価</p> <p>グループの各構成員、構成員の親会社とも安定した経営状況にあり、評価基準を満たしている。</p>	A	A	施設所管課の評価は妥当である。
--	----------------------	--------------	---	---	--	---	---	-----------------

※評価の基準：評価は下記の4段階評価とする

S：計画を上回る優良な実施状況 A：計画どおりの良好な実施状況 B：計画どおりではないが、ほぼ良好な実施状況 C：改善を要する実施状況